

神戸大学学生震災救援隊

1995年1月23日設立

発足当時の救援隊(1995)

神戸大学は生協食堂、農学部、国際文化学部体育館などが避難所になった。大学生協あてに届いた物資を用いて学生が自主的に炊き出しを開始。その後、1月23日に同じ大学生協に避難していた学生を中心に「神戸大学学生震災救援隊」が発足



地震を跳ね返す耐震構造の人間関係を作る

大規模災害では、通常の行政が可能なサービス提供量をはるかに上回る被災者のニーズが発生する。そのため「自助・共助」が重要となり、それを実現するためには「日常的に地域の人同士間の横のつながり」が必要である。このような横のつながりを実現するために「市民とともに、市民のひとりとして」町に関わろうとする学生が集まっているのが学生震災救援隊



学生震災救援隊の隊員たちは、地域住民の方や避難者の方と協力しながらお風呂運営や炊き出し、テント村パトロール、子供たちの学習支援などのボランティア活動を行った。



耐震構造の人間関係

学生

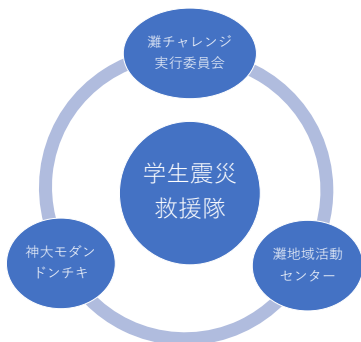
- 学生同士のつながり
- 学生と地域の人とのつながり

地域

- 地域人と地域の人とのつながり
- 地域と行政のつながり

現在の救援隊(2024)

現在の学生震災救援隊は阪神・淡路大震災からの復興祭である灘チャレンジ、隔週土日でHAT神戸と岩屋でお茶会を開催する灘地域活動センター、全国各地でチンドンの演奏を行う神大モダンドンチキ3団体と連携して活動を行っている。学生震災救援隊は主に震災継承イベントの開催、水害や地震の被災地に赴き足湯などのサロン活動を行う。



令和6年能登半島地震被災地での支援活動

令和6年1月1日に起きた能登半島地震の被災地である石川県輪島市、七尾市で支援活動を行いました。この活動は現地で活動している被災地NGO協働センターの協力と現地の七尾市中島区の集会所からの支援要請があったため実現したものです。



現地では足湯で現地の方と交流を行い、現地支援のニーズを把握しました。また、被災された住宅で瓦礫などの片付けの手伝いをさせていただきました。